

## 【復興関連道路】

# 主要地方道重茂半島線の道路整備について着工！

～ 本格復興邁進年！まちづくり連携道路整備が本格化！～

沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

### 1 (主) 重茂半島線のまちづくり連携道路整備

(主) 重茂半島線は、下閉伊郡山田町大沢地区から宮古市津軽石地区に至る重茂半島を周回する唯一の道路であり、水産業を中心とした地域住民の生活道路として重要な役割を果たしています。また、路線の一部は「三陸復興国立公園」を通過しており、本州最東端の鮎ヶ崎（とどがさき）の灯台やその周りに広がる風情豊かな景色を求めて多くの人々が訪れています。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波では、重茂半島の宮古市姉吉地区で日本国内観測史上最高の高さ40.5mの津波遡上高が観測されるなど、重茂半島線の海辺の集落では浸水により道路が寸断され、長期間孤立するなどの甚大な被害が発生しました。

このため、県では、県復興計画において(主)重茂半島線を水産業の復興を支援する「復興関連道路」として位置付け、「多重防災型まちづくり推進事業(まちづくり連携道路整備事業)」により平成24年度から事業着手しています。現在、山田町の「大沢～浜川目」、宮古市の「川代」、「石浜」、「千鷲」、「里」、「熊の平～堀内」、「堀内～津軽石」の7地区で宮古市及び山田町の復興まちづくり計画と一体となって事業を進めており、本事業により、東日本大震災津波と同規模の津波が発生した場合でも、浸水しない道路が整備されます。

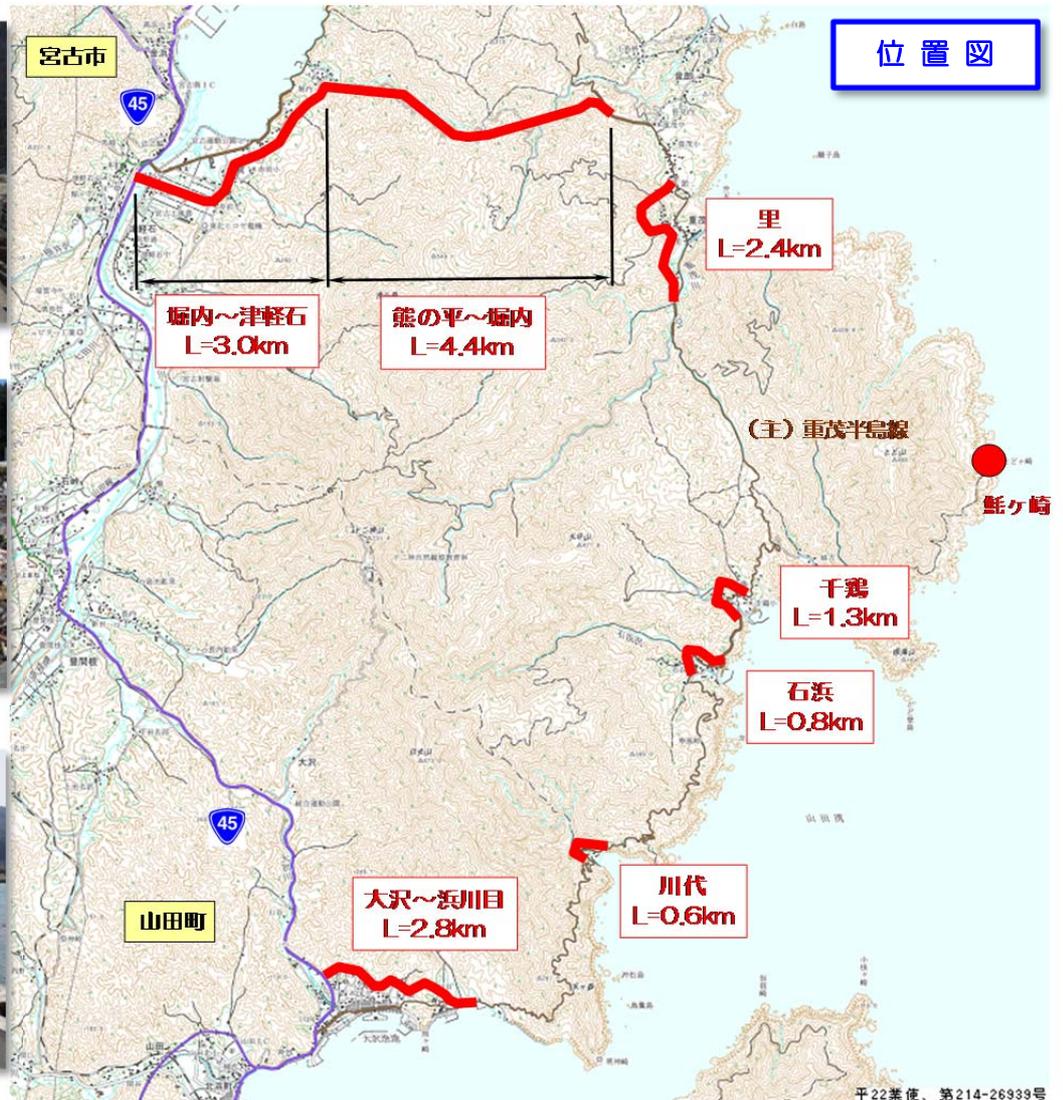
里地区 (落橋した向流橋)



石浜地区 (崩落した県道)



浜川目地区 (崩落した県道)



## 2 大沢～浜川目工区が（主）重茂半島線で初の着工！

山田町で事業を進めている大沢～浜川目工区について、平成26年12月末から大沢地区の道路改良工事に着手しました。（主）重茂半島線のまちづくり連携道路整備事業の中で最も早い工事着手となります。

大沢～浜川目工区は、山田町の大沢～浜川目地区の浸水地域を回避して高台に新しい道路を整備するもので、工区沿線では山田町が3箇所の住宅団地（大沢第1住宅団地、大沢第2住宅団地、浜川目住宅団地）の整備を進めています。平成26年7月から用地補償に着手し、半年間で約9割（78名）の用地を取得、地域住民の皆様の御協力もあり、早期に工事着手することが可能となりました。

県では、今年を「本格復興邁進年」と位置付け、復興を強力に推し進めており、大沢～浜川目工区についても山田町が整備する住宅団地付近の道路改良工事を重点的に進めると共に、平成27年度には（仮称）大沢トンネル（L=265m）の工事にも着手する予定としています。

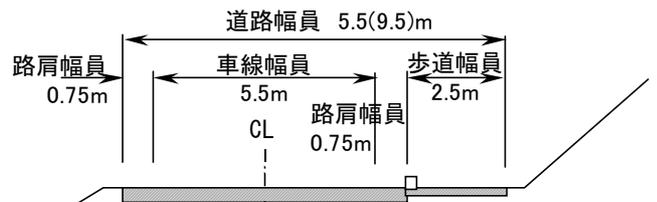
また、宮古市の千鷲工区や里工区についても、平成26年度中の工事着手に向けて事業を進めていきます。

### 概要図

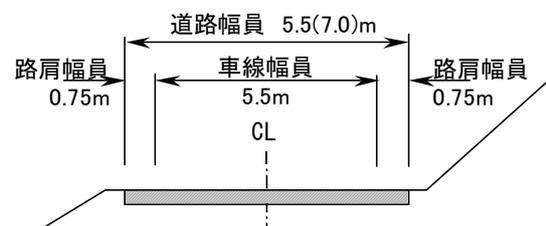


### 標準断面図

#### 【歩道設置区間】



#### 【歩道未設置区間】



### 大沢第1住宅団地付近の工事状況



### 3 熊の平～堀内工区に道路計画表示板を設置！ ～つなごう！復興の道～

宮古市で事業を進めている熊の平～堀内工区については、宮古湾に面する白浜～堀内間の浸水区域を回避するため、現在の県道を大きくバイパスするルートで事業を進めていますが、山林を通過する計画であるため、新しい道路のルートが現地で分かりにくい状況でした。

このため、地域住民の皆さんが新しい道路計画のルートを現地でわかりやすく確認できるように、道路が通過する（主）重茂半島線や宮古市道（熊の平堀内線等）の現道上に、起終点やトンネル・橋梁といった主要構造物の位置を示す道路計画表示板を7箇所設置しました。

熊の平～堀内工区については、現在、橋梁の設計や保安林解除等の関係機関との協議を進めており、平成27年度からは（仮称）熊の平トンネル（L=771m）や橋梁工事に着手する予定としています。

